

## 由仁町 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
由仁町	由仁地区(山形、古川、伏見、下古山、山榊、岩内、古山、熊本、西三川、本三川、中三川、東三川、川端)	令和3年6月30日	—

### 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	5983.55ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	5423.27ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	1363.00ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	858.85ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	32.94ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	1267.19ha

### 2 対象地区の課題

<p>由仁地区全体では、65歳以上で後継者未定(不明も含む)の農業者の耕作面積よりも、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の方が375.39ha多く、担い手は十分確保されている。</p> <p>しかし、地区内の内訳として、山形、古川、伏見、下古山、山榊、中三川地区では、今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、後継者未定(不明も含む)の農業者の耕作面積の方が143.89ha多く、他集落からの農地の受け手の確保が必要である。</p>
--

### 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>山形、古川、伏見、下古山、山榊、中三川の農地利用においては、集落内の中心経営体を主体として担い、他集落からの経営体の受入を促進することで対応する。</p>
<p>岩内、古山、熊本、西三川、本三川、東三川、川端の農地利用においては、中心経営体が担っていく。</p> <p>1農家あたりの耕作面積が拡大していくことが想定され、効率的な農業経営を行うことができるよう、農地の集約化を進めていく。</p>

### 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

<p>中心経営体への農地の集積・集約化を推進するために、農地所有者の営農意向を把握し、農業委員会、JA等関係団体との連携を図り、農地引受を円滑に進め、希望者がいる場合は農地中間管理機構を活用する。</p>
<p>基盤整備、換地等を行い農地の集積・集約化を図るとともに、中心経営体の1農家あたりの耕作面積の拡大に伴う農作業時間の増加を解消するため、スマート農業を活用した労働時間の縮減を図り、大規模農業を促進する。</p>